

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
在外研究
2013 年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	文学部・教授		久保田 浩 印	
研究課題	日欧における民族主義宗教運動とスピリチュアリズムとの連関に関する宗教史的研究			
研修期間	2013 年 4 月 1 日 ~ 2013 年 9 月 18 日 (171 日間)			
経 費	年度経費	SFR 助成額	所属学部からの補助額	合 計
	2012 年度	1,023,670 円	1,000,000 円	2,023,670 円
	2013 年度	479,294 円	1,000,000 円	1,479,294 円
主な滞在国 及び 研究機関名	国 名	研究機関名		
	ドイツ連邦共和国	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ (フランクフルト) 大学		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

本研究の前提として、19 世紀中葉から第二次世界大戦終結に至るまでのヨーロッパ特にドイツの民族 (至上) 主義宗教 (völkische Religion) 運動と、同時期にヨーロッパ全土を席卷した所謂近代スピリチュアリズム運動という、二つの「近代的」宗教運動の同時代性への着眼があった。そこで、「西洋近代」に誕生したこれらの「宗教」形態と、それが近代化を図る日本において如何に受容されていったかを分析することを通じて、「宗教」=「前近代」、という図式を検討し、「近代」の多様な姿の一端に光を当てることを目指した。換言すれば、伝統的 (「前近代的」) 宗教性を代替あるいは刷新 (「近代化」) することを目的とした「近代的」諸宗教的・文化的運動に見られる「近代」のねじれを描き出すことが試みられた。こうした「近代」のねじれについては 20 世紀末、特に今世紀に入ってから文学研究の枠内で徐々に事例研究が進められ (例えば、ニュー・ヒストリシズム)、また歴史社会学的にも、一枚岩ではない「近代」のモデル (例えば、S・N・アイゼンシュタットの “multiple modernities”) 等によって示唆されてきたものであるが、これまで着目されてこなかった民族主義宗教運動とスピリチュアリズム運動との連関を軸に、こうしたねじれの具体的様相を改めて描き出すことを目指したのが本研究であった。2013 年度は、2012 年度内の研究を継続したものであるため、以下では 2012 年度の研究結果と関連させながら 2013 年度について記述する。本研究の主要な研究対象は第一に、ヨーロッパ近代スピリチュアリズムの日本での受容 (特に、浅野和三郎)、更には日本のスピリチュアリズム的宗教 (特に、浅野和三郎と出口王仁三郎を中心とした大本=人類愛善会) のヨーロッパにおける活動 (ヨーロッパのスピリチュアリズム諸団体との交流と協力関係) を資料に基づいて明らかにすることであった。そこで、2012 年度中に浅野和三郎と元東京帝国大学心理学助教授の福来友吉 (所謂「念写」の発見者) の遺した資料 (二人は 1920 年代に渡欧し、心霊研究者と交流している)、また 2013 年度には、大本が積極的に交流を図ったスピリチュアリズム団体 (ドイツ、スイスの白旗団 Weiße Fahne、ブルガリアの白色同盟 White Fraternity) に関連する資料の蒐集と分析を行った。本研究の第二のトピックである、ドイツにおける民族主義的宗教運動とスピリチュアリズムとの歴史的連関については、2012 年度は、「心霊キリスト教 Geistchristentum」を説く反ユダヤ主義的な民族主義宗教者 Artur Dinter の小説をその政治史的・宗教史的文脈において考察し、彼の反ユダヤ主義思想を、「近代的宗教」即ち「近代学問化した宗教」として特徴づけ、その「(スピリチュアリズム的) 宗教」と「(政治的) 民族 (至上)

研究成果の概要 (つづき)

主義」と「(通俗化した) 学問」との錯綜した関係を解明した。そして 2013 年度は、Dinter とスピリチュアリズム・民族主義という点で類似の思想を展開していたウィーン大学の新約聖書学者 Richard Adolf Hoffmann の学問的著作の中に見られるスピリチュアリズムの位置づけと民族主義的宗教性(「ドイツ民族のための宗教」の確立の試み)を分析した。以上の研究内容が示唆しているように、民族主義宗教運動とスピリチュアリズム双方の「近代」との連関の解明、つまり上述の「近代」のねじれを明らかにするには、これらの宗教運動が自任する「近代的学問」性を分析することが不可欠であり、「近代」と「宗教」と「学問」、という三項の相互連関の解明が本研究の枠組みであった。具体的な成果は以下のとおりである。「宗教」と「学問」との関係については、一方で「(スピリチュアリズム的) 宗教」(=「学問」を自任する「宗教」)と「近代的学問」との決裂がもたらされる場合(後期福来の「念写」実験に見られる、「宗教」化していく「学問」性と、Wundt に代表されるような、「近代」社会に即応して体制化していく「学問(心理学)」性との分離。後者が前者を体制内から駆逐することによって、いわゆる「近代的学問」の輪郭が明瞭となっていく)、他方で両者の融合がもたらされる場合(浅野、後期福来の、「西洋近代的学問」という自己理解を有するスピリチュアリズム=体制化した「学問」の外部の「学問」)、という、少なくとも二つの方向性が、「近代的学問」の揺籃期にあった西洋においても確認されることとなった。こうして、日本のみならずヨーロッパ自体においても、「学問」と「宗教」双方の関係の揺れが如実に認められ、こうした揺れこそが「近代」を特徴づけていることが事例的に明らかとなった。以上のように、西洋における「近代的学問」の成立と確立を歴史的に再検討するには、この二つの宗教運動に見られる「学問的」自己意識が格好の素材を提供していること、並びに、反ユダヤ主義的な民族(至上)主義的言説は、政治運動としてのナチズムに収斂していくような政治言説としてのみならず、当時の社会の文化言説(とりわけ、宗教的かつ学問的言説)としても、「近代」の揺れ・多面的性格を示していること、これらが明らかになったと言える。

キーワード (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)

[スピリチュアリズム] [近代ヨーロッパ宗教史] [民族主義] [学問史] [反ユダヤ主義]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書(著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)
- ④その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

①久保田浩(単著論文)「境域への眼差しとしての近代ドイツ宗教史―「キリスト教」「ユダヤ教」「ドイツ宗教」の隙間」、『ユダヤ教とキリスト教 日本基督教学会北海道支部公開シンポジウム記録』第2号、2013年、38-66頁。

久保田浩(単著論文)「ドイツ連邦共和国における「宗教学」の制度化を巡る諸問題」、『宗教学年報』、XXX(特別号)、2013年、139-158頁。

②久保田浩(編著書)、リトン、『文化接触の創造力』、2013年、272頁。
(久保田浩「<文化間>への視座」、1-14頁。久保田浩「「反ユダヤ主義」の誕生―アルトゥーア・ディンターの小説における知の生産」、175-203頁。

久保田浩(編著書)、丸善、『世界宗教百科事典』、2012年、912頁。

③Hiroshi Kubota(招待講演) „Der Spiritismus als Gegenstand religionswissenschaftlicher Forschung“, Universität Frankfurt am Main, 06. Dezember 2012. (「宗教学的研究の対象としてのスピリティズム」、2012年12月6日、フランクフルト大学)

Hiroshi Kubota(招待講演、テュービンゲン大学研究プロジェクト Heilige Texte. Sakralisierung der Literatur und Literalisierung der Religion(聖典―文書の聖化と宗教の文書化)主催公開講演会): „Der „moderne“ Spiritismus Europas und die „Moderne“ Japans - Eine wissenschaftsgeschichtliche Betrachtung -“, Universität Tübingen, 27. Juni 2013. (「ヨーロッパの「近代的」スピリティズムと日本の「近代」、2013年6月27日、テュービンゲン大学」)

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。